

リーダーは何をするか

2008年5月3日

久家 隆男

はじめに

私が今までハイキングクラブで参加した山行のリーダーの総数は20名以上になります。当然のことながら性格は様々で、中には酒好き豪放磊落で一見いい加減のように見えるリーダーもいます。しかし、その人がリーダーをやるときには、周到な計画を立て慎重な行動をするので、別人の様に感じます。

私が接したベテランリーダーは一様に周到な計画を立て慎重な行動をしています。これは長い経験によって、常にリスクマネジメントの意識を持つようになったからだと思います。

これからリーダーをやって戴く人のために、リーダーは何をするかを書いてみるつもりですが、その根底にあるものはリスクマネジメントだと考えます。従って、これが反映される様な形で書いてみようと思っています。

また、私は山の楽しみが前、中、後と三つあると思っています。前は計画、中は実際の山行、後は山行の整理です。

計画のときにはガイドブックや地図を見て、あれこれと想像をめぐらすことが楽しいものです。また、電車やバスの時刻を調べている際に、接続が非常に良いところや、まるで意地悪をしているように非常に接続が悪いところがあって、これも面白いものです。リーダーでなくても、山行前にできるだけ情報を集めておけば、本番の山行が一層充実したことになります。

山行の楽しみは言うまでもありませんが、下調べを充分にした山行は安全です。また、疲労が少なく、早く帰宅できます。そして、いつまでも楽しい思い出が残ります。一方、事前に登る山のことは何も知らずに単に皆の後を付いて歩いた山行は、達成感や充実感が少なく、1年も経つと登ったことさえ忘れてしまいます。

山行の整理は、コースタイムや山行の様子を記録し、撮った写真を整理することです。これによって、いつまでも楽しい思い出が鮮明に残り、次に登るときの参考にもなります。

1. 計画

先ず、登る山と山行日を決めなければなりません。

登る山と山行日はセットとして考えるべきです。即ち、陽の長い春から夏にかけては長い行動時間でも問題がありませんが、陽の短い秋から冬にかけては短い行動時間の山を選ぶことになります。また、夏は低山では暑くて厳しいので高い山を考えますが、

冬は我々の実力では低山になります。

登る山は2～3の候補を挙げてみます。一つの山でも色々なコースがありますので、いくつかのコースを挙げてみます。そして、ガイドブックや地図（以下、地図と書きますが、1/2.5万の地形図を意味します）で歩行時間、標高差、岩場の有無等を調べ、難易度を考えます。

ガイドブックは2冊以上を比較してみます。同じコースでも著者によってタイムがかなり異なる場合がありますが、この場合は地図を見ながらどちらを採用するか自分で判断します。判断できない場合は長い方を採用した方が無難です。なお、最近のガイドブックは多数を占める中高年を意識して、昔より長めに設定してあります。私の感じでは山と溪谷社より昭文社の方が長いようです。

インターネットで山を検索すると、多数のHPが出てきます。しかし、あまり信用しない方が無難です。これは概して自己顕示欲の強い人の紀行文の様なものが多く、無責任な記述や誤りが多数見られます。但し、山岳出版社、地元の観光協会、山小屋のHPは信用できると思います。

また、往き帰りの交通機関も調べます。山麓までバスがあっても地元の人のためのものであって、山登りに都合の良い時刻のバスがない場合があります。このような場合はタクシーを利用することがありますが、駅前にタクシーがない所があり、隣町から来てもらうこともあります。この場合は予約をしておいた方が間違いありません。

交通機関は今やかなりの範囲がHPで調べられますが、バス路線によっては載っていないこともあります。私は、電車は都市圏なら全ての駅の時刻表が載っている東京時刻表（交通新聞社発行）で調べ、バスはバス時刻表（山と溪谷社発行）で調べます。但し、バスの時刻は不定期に改訂になりますから、バス会社のHPで確認し、HPがなければバス会社に問い合わせます。

このように調べてみると、魅力のある山でも交通機関の関係で断念せざるを得ない場合もあり、絞り込んで行くことができます。

また、集合時刻はメンバーの自宅付近の駅を考慮しながら、できるだけ早朝にします。早く集合して早く歩きだせば、予期せぬトラブルがあってもあせることはありません。山の遭難で最も多いのは道迷いですが、私の経験では時間に追われてあせっているときに起こりやすいと思います。また、早く下山できれば、近くの温泉で汗を流すことも可能です。下山時刻はできるだけ日の入り時刻の2時間以上前になるように計画します。

下山後にバスを利用する場合は、予定のバスの前1時間に後2時間位の発車時刻をメモしておきますが、同時にタクシー会社の電話番号もメモしておきます。

次に、地図で全コースを確認します。道は、尾根道か沢添いの道か山腹の巻き道かのどれかになりますから、どのような所を歩くかを確認します。このときに標高毎に色鉛筆で色分けすると、山の姿が非常に分かり易くなります。色分けする標高は何m間

隔でもよいのですが、細かすぎると色塗り作業が面倒だし、粗すぎると効果が少ないので、私は 250m 間隔で塗っています。地図で標高は非常に分かり難いものですが、このように色分けすることにより簡単に分かるようになります。また、尾根と沢の区別や尾根の張り出し等が分かり易くなります。

同時に、支尾根を別の色で線を引いておきます。行動中に尾根を見て位置確認をすることは非常に多いですが、これにより分かり易くなります。

なお、分かり難いコースを歩くときは、1～2週間前に実踏（下見）をしておくことがベストです。これにより、地図やガイドブックでは分からない危険箇所等が分かり、多数の場合は昼食の場所も選定できます。

以上の様に下調べをして決定したならば、山行計画を作成して発表します。この際に、装備に関しても分かり易く書いておきます。山を知らない人は、天気予報で晴ならば雨具を持参せず、日帰りならばヘッドランプを持参しません。しかし、山では予報と違って雨が降ることがしばしばありますし、雨具は防風や防寒に使えます。また、日帰りでも何かあれば直ぐに山中で暗くなってしまいます。従って、どんなときにも雨具とヘッドランプは必携です。

また、山や季節によりますが、リーダーとサブリーダーは少なくとも下記の装備を共同で持参することが望ましいと思います。

- ・ ツェルト
- ・ ザイル（Ex 7mm×20m）
- ・ シュリング
- ・ カラビナ（場合によってはエイト環）
- ・ 笛
- ・ ローソク
- ・ マッチ
- ・ 細引き
- ・ 救急薬品
- ・ 非常食（リーダーとサブリーダー以外にも主メンバーは必携）

リーダーは参加者名簿も作成します。これには、名前、住所、自宅電話番号、携帯電話番号を書き、リーダーとサブリーダーが持参します。ちなみに私が属しているハイキングクラブでは、生年月日、緊急連絡先（氏名、電話番号）、血液型、保険会社の名等もリーダーに提出することになっていますが、山久会ではそこまでの必要はないでしょう。

また、1泊以上するような場合は、麓で登山届けを提出しますが、これも事前に準備しておきます。登山届けの様式は決まっているものではないですが、インターネットでひな形を探せます。

2. 山行

山行中にリーダーが行うことで最も重要なことは、パーティが安全で確実に行動できるようにマネジメントすることです。

これには、先ず計画通りに歩くことです。計画通りに歩くということは、コースを計画通りに歩くことと、時間通りに歩くことがあります。

コースを計画通りに歩くことは、迷わずに歩くということです。従って、リーダーは常に地図を見て、ピーク、鞍部、分岐等では必ず現在地を確認します。また、途中で道を逸れる場合は、現在地からその分岐までの時間と分岐の標高を確認して歩きます。道標があっても不正確な場合があり、必ず地図で確認することが重要です。無論、地図を見て方向を確認するときには、コンパスを使うことになりますが、このような基本的なことに関しては山久会HPの「地形図の使い方」を読み直して下さい。

当然のことながら山歩きは三次元の行動です。従って、現在位置の確認には標高を知ることは重要です。特に、単調な登りや下りの場合は、高度を確認することによって現在位置を推定し易くなります。

コースを時間通りに歩くのは、大部分は山行計画にかかっています。メンバーを考えずに自分の体力だけでコースタイムを考えると、予定より遅れてバスに乗れないようなことが生じます。従って、コースタイムには十分な余裕を持つことが必要です。

なお、出発前には、簡単なミーティングをした方がよいと思います。例えば、急登の場所、危険箇所、展望の良い場所、昼食場所、下山時刻等々について分かる範囲で説明すべきです。

人数が10名以上の場合は、出発前に一人一人の名を呼んで申込者を確認すべきです。また、大休止の後に出発するときにも点呼を取るべきです。人数が多いとトイレ等で一人位が欠けていても分からないことがあります。

トップで歩くときは、普段よりもゆっくり歩いて丁度良い早さになります。トップを歩く経験の少ない人はどうしても足早になりますので、注意が必要です。

休憩までの行動時間は登り、下り、傾斜の程度により異なりますが、30～45分が良いと思います。このために、次にどこで休憩するかも考えながら歩きます。

休憩する場所に着いたら、リーダーは休憩する旨をラストの人まで伝える様に言います。この時に、休憩時間か出発時間を必ず言います。これを言わないと、メンバーは何かをする時間があるのかないのか分からず、突然に出発と言われても困ります。

休憩時間は昼食を除いて10分以内にすべきです。休憩時間が長いと体が冷えると共に気持ちが緩み、体調が悪くなります。

昼食は11時を過ぎたら歩きながらメンバー全員が腰を下ろせる所を探します。昼食は山頂が良いのですが、狭い山頂の場合は山頂以外の場所を選ぶことになります。

山頂が狭く、その山頂を越えて進む場合に、山頂周辺の様子をよく知っていなければ山頂の手前で昼食にする方が無難です。山頂の先に昼食に良い場所があるだろうと勝手に考えると、期待を裏切られて休憩する場所がなく、昼食が12時を過ぎてメンバーから苦情が出ることがあります。

主なピークや鞍部への到着時間を予め想定しておくことも必要です。昼食場所以外は特にメンバーに知らせる必要はありませんが、現在の行動が早いのか遅いのか見当を付ける必要はあります。遅い場合にメンバーの全てが元気良ければ、遅れを取り戻すために早足で歩くこともあります。しかし、足弱の人がいる場合は、全てのコースを踏破せずに、途中から下山することもあります。適当な下山路がなければ、元の道を引き返すことになります。リーダーは歩きながら、このようなことも考えます。

また、いかにコースタイムを適切に計画しても、アクシデントは生ずるものです。この場合には臨機応変に対応しなければなりません。従って、リーダーは予定のコース以外のエスケープルートに関しても、コースタイムや交通機関を調べておく必要があります。

行動中はメンバーの行動にも気に掛ける必要があります。ベテランの人には必要ないですが、初心者には注意が必要です。例えば、鎖場や梯子を通過するときに適切な掴まり方をしているか、すれ違い時に山側に避けているか、ストックを適切に使用しているか、ザックの背負い方が適切か等々、沢山あります。メンバーの体調の確認は無論です。これらは後からメンバーの様子が見えるサブリーダーの仕事でもあります。

歩く順序は、リーダーがトップならば最も足弱の人が2番目になり、足が強い人は後方を歩き、ラストは必ずサブリーダーになります。なお、危険箇所がある場合には、初心者の前後にベテランの人を歩かせることも必要です。

以前に私が属していた某山の会のことですが、登山道でメンバーが平気でリーダーの前を勝手に歩き（下山後の林道では問題にしない）、誰も注意しないのを見て、この会はリーダーシップもメンバーシップも欠けていると思って短期間で退会しました。

山慣れない人がいる場合は、装備を使う時期の指摘も必要です。例えば、雨具、スパッツ、アイゼン等の装着があります。また、これらがこれから必要になりそうなときは、ザックの中で直ぐに取り出せる位置に移し変えるように、休憩時に指示することも必要です。

メンバーに体調が悪い人が出た場合に、登り始めて間もないときならば、下山してもらいます。但し、決して一人では下山させずにサブリーダーに付き添わせます。この場合は、同じ道を引き返すこともあれば、エスケープルートを下ることもあります。どこに下山させるかはリーダーの判断になります。下山後に電話連絡してもらうのは言うまでもありません。また、病気や怪我でなく、単にバテたのであれば、その人の荷物を分担して背負います。但し、リーダーは分担した荷物を背負はない方がよいと思います。下山まで何が起きるか分かりませんので、リーダーは必要以上に体力が消耗しないようにしておく

べきです。

その他に、H P 等に記録を残すために、行動時刻をメモしておく必要もあります。これはクラブによっては黙っていてもサブリーダーがやりますが、習慣のない山久会においてはリーダーが自分でやるか、サブリーダーに指示することになります。

その他に、山久会では山行記録と共に写真をH P に載せますので、リーダーが自分で撮らなければ、カメラマンを事前に決めておくといでしょう。

3. 整理

コースタイム、山行の様子、写真等を整理してU S Bメモリに記憶し、佐々木さんに渡してH P に追加してもらいます。

4. あとがき

私がリーダーをやるときのことを書き並べてみましたが、無意識にやっていることなので、未だ書き漏らしがあるように感じています。ただ、はっきり言えることは、リーダーの役割は案内人でもなければポーターでもなく、メンバーに快適且つ安全に山を楽しんでもらうようにマネジメントすることだと思います。従って、リーダーがトップを歩く必然性はなく、むしろラストを歩いてメンバーを後から観察し、トップはサブリーダーに任せるのが理想です。また、サブリーダーはリーダーに不測の事態が生じたときには代わって指揮を取る立場ですから、リーダーと同等に行動できることが要求されます。

このようにしてリーダーやサブリーダーをやると、人の後を付いて行くのと違って色々なことを考えて行動しますので、必ずレベルアップします。従って、できるだけ多くの人に体験して戴きたいと考えています。

なお、リーダーをやる方には、「登山不適格者 岩崎元郎著 日本放送出版協会」の一読を勧めます。